



銀輪軽やか 那賀川流域でサイクリング大会



那賀川流域をサイクリングする「第25回那賀川流域センチュリーラン羽ノ浦大会」が5月18日に開催され、県内外から428人のサイクリストが参加しました。大会は、羽ノ浦町明見を起終点に、那賀町木沢支所を折り返す全長約120kmと、那賀町丹生谷橋で折り返す全長約50kmの2コースで行われました。自慢のロードバイクを軽やかに走らせて新緑の那賀川を走り抜ける選手たちに、沿道から盛んに声援が送られていました。25年連続出場した島田翠正さん（70歳・徳島市）は、「この大会には数々の思い出があります。昨年はタイムを競い合いましたが、今日は親子3代でサイクリングを楽しみました」と額の汗をぬぐっていました。

マック鈴木さんが「夢先生」として授業 「努力」「感謝」などの大切さを伝える



日本サッカー協会主催のプロジェクト「夢の教室」で、元メジャーリーガーのマック鈴木さん（38歳・兵庫県出身）が5月26日、見能林小学校を訪れ、子どもたちに夢を持ち、努力することの大切さを伝えました。鈴木さんは、5年生と体育館で体を動かすゲームを楽しんだ後、教室で授業を行い、自身の野球人生を振り返りながら、「夢を実現するには、しんどいことやつらいことが必ずあります。楽をせず努力することでそれを乗り越えられる人間になり、周囲への感謝を忘れないでほしい」と呼びかけました。横手海斗さん（10歳・中林町）は、「僕も努力して、プロのバスケットボール選手になる夢を叶えたいです」と目を輝かせていました。

津乃峰小6年生が「あななん観光PR隊」 を結成！修学旅行で阿南市をPR



県外の方に阿南市や市イメージアップキャラクター「あななん」のことを知ってもらおうと、津乃峰小学校6年生25人が「あななん観光PR隊」を結成し、修学旅行先の大阪や奈良などでPR活動を行いました。これは、児童が自ら阿南のPRをすることで自主性を養うと同時に、地元への理解を深めようと初めて企画されたものです。5月16日から1泊2日で近畿方面を訪れ、出会った人々に観光ガイドブックや「あななん」の名刺を配りました。原田海さんは、「おじさんにガイドブックを渡すと、『阿南に行ってみてほしい』とうれしそうに言ってくれました。勇気を出して話しかけてよかったです」と話していました。

蒲生田海岸清掃に約300人が汗 アカウミガメにたくさん上陸してほしい



アカウミガメの産卵地として有名な蒲生田海岸で、6月1日、阿南市KITT賞賛推進会議と阿南市ボランティア連絡協議会などから約300人が参加し海岸清掃活動が行われました。一斉清掃は今回で3回目です。参加者はポリ袋を手に、流木や海藻、ペットボトルなどを分別しながら拾い集め、軽トラック3台分のごみを回収しました。椿町中学校生徒会長の井村明日香さん（3年生）は、「学校で毎年ウミガメのふ化活動に取り組んでいます。きれいになった海岸にたくさん上陸してほしいです」と話していました。また、会場では、呼びかけボランティアの皆さんによるたこ焼きが販売され、売上金から経費を除いた7,953円が同会議に寄付されました。

阿南ふるさと大使・武知実波さん 記念シンポジウムで海の魅力語る



室戸阿南海岸国定公園指定50周年を記念したシンポジウムが、6月8日に室戸市保健福祉センター「やすらぎ」で開催され、国定公園を構成する6市町のうち、本市を代表して阿南ふるさと大使の武知実波さん（20歳・桑野町）が出演しました。パネルディスカッションで、武知さんは、「生まれ育った阿南市、阿南の海が大好き」と語り、「意外とと思うかもしれませんが、阿南の海は世界のサーファーも注目する良い波が来ます。牟岐町の内妻海岸や高知県東洋町の生見海岸など、阿南から室戸にかけてのビーチは、サーファーの憧れの場所でもあるんです」と国定公園の魅力の説明。客席からは熱い視線が注がれていました。

モンゴルからの訪問団が来市 エコパーク阿南などを視察



モンゴル最西部のバヤン・ウルギー県や県都ウルギー市の関係者6人を含む訪問団が5月30日、市内を視察しました。これは、本市と交流のあるチョナイ・クラダ在大阪モンゴル国総領事館総領事の呼びかけにふるさとのバヤン・ウルギー県が応じたもので、今回が初めて。一行は、石炭火力発電所や市内企業などを視察。新ごみ処理施設「エコパーク阿南」では、中央制御室やごみ処理場などを見学し、職員から処理工程の説明を受けました。県議会議長のブラン・ラゼットハーンさんは、「モンゴルでは、ごみ処理の制度が未整備で大きな問題になっています。訪問で得た知識を生かし、自分たちの地域でも応用できることから始めたい」と話していました。

那賀川中学校で新築落成式 450人が完成を祝う



那賀川中学校で6月5日、校舎や武道場の新築落成式が行われ、生徒や教職員など450人が完成を祝いました。岩浅市長は「この立派な学び舎を巣立った皆さんが、社会で活躍することを祈っています」とあいさつ。生徒代表の濱田葵さん（3年生）が「新校舎で勉強やクラブ活動に取り組み、充実した日々を過ごしたいです」と抱負を述べました。那賀川童謡を歌う会や同中学校シンフォニックバンド部も歌や楽器の演奏で式典を盛り上げました。校舎棟は鉄筋コンクリート造3階建て、一部4階建て。窓が多く開放感のある造りで、駐車場や武道場も整備されました。総工事費は約16億7,000万円です。

長生公民館に 災害用移動炊飯器が配備される



災害発生時の炊き出しに役立ててもらおうと、日本赤十字社徳島県支部が主体となって県内各地に配備している災害用移動炊飯器1台が5月19日、長生公民館に贈られました。炊飯器の重さは44kgで、鍋の直径は80cm。「ガス」または「まき」を燃料とし、直炊きでご飯約200～240膳分を炊くことができます。贈呈式には地元関係者など約35人が出席し、日赤支部の職員から取り扱いの説明を受けて、使い方を確認しました。阿南市地区赤十字奉仕団長生分団委員長の池添三枝子さんは、「身近な場所に配備されるのはとても心強い。防災訓練や町内イベントで活用し、災害時に備えたいです」と話していました。